

研修報告書No. 6

所 属：県外大学病院研修医

研修先：佐川町立高北国民健康保険病院

仁淀川町国民健康保険大崎診療所

私は研修医2年目の7月に高知県の佐川町立高北国民健康保険病院および仁淀川町国民健康保険大崎診療所にて地域医療研修医をさせて頂いた。今まで大学病院で研修をしてきたため地域で医療行為を行うということは初めての経験であり、この1ヶ月の研修期間中では大学病院では経験できないような医療の現場を学ぶことができた。

私が研修を行っている大学病院で地域医療に協力して頂いている病院の所在地としては、北は岩手から南は鹿児島までと日本各地で研修を行うことが可能であった。その中でも高知県は高齢者に対する医療・介護給付費がトップクラスであり、どのような地域医療が行われているか非常に興味があった。また私の出身大学から多くの先輩方が高知県で研修されており、高知県での研修は地域医療を学ぶのに非常に良かったと伺っていたため、高知県での地域医療研修を希望した。

研修期間中に最も長く研修していたのは佐川町立高北国民健康保険病院であった。こちらの病院では一般病棟50床と療養型病棟48床となっており、外来も内科、整形外科、産婦人科など多くの診療科を備えており、人間ドッグ、特定健診、訪問診療、訪問看護など多くの医療を地域に提供していた。さらには付属施設としてデイケアセンター、デイサービスセンターがあり、月に1度遠隔地の診療所にて診察を行うなど、高北病院は高吾北地域という地域の拠点病院として機能していることを知ることができた。指導医の先生も地域医療に携わって32年目になるベテラン医師であり、何かわからないことがあってもすぐに相談でき、懇切丁寧に指導して頂いた。また研修期間中に入院患者を高知市内の病院へ救急搬送する機会があり、地域と都市部の医療圏との連携を学ぶこともできた。

研修期間中に1週間程、仁淀川町国民健康保険大崎診療所でも研修をさせて頂いた。こちらの診療所は高北病院よりもさらに山間部に位置しており、診療所の裏には水が透き通るように綺麗な仁淀川が流れている。そのような大自然の中にあるにも関わらず、診療所内にはCT撮影装置も設置されており、医療設備は充実していた。そこでは1人の常勤医師と他施設からの医師、他の医療スタッフ、役場職員の方々が連携し、地域の医療を支えていた。

私は研修期間中に佐川とその周辺にある介護サービス施設を複数見学させて頂いたのだが、どこの施設でも百歳体操という高齢者のための介護予防が行われていた。高知県では高齢者に対する医療や介護が充実しているとは聞いていたが、介護予防的な面でも積極的な取り組みがなされていたことに非常に驚いた。

1か月の研修を振り返って、今回の地域医療研修では地域の拠点病院の医師は様々な持病を持つ高齢者を診察するために内科的知識を幅広く備える必要があることが理解できた。

また持病が多い高齢者は入退院を繰り返し毎回ADL等の変化が伴う。その際に退院後に自宅退院するか施設入所するかなどの判断に難渋するケースがあり、医師はそのときに適切な判断の元に他職種と連携して、患者にとってより良い方針を決めていく能力も必要であることも分かった。またそのような医師や様々な職種の医療従事者と協力していくことで、地域の拠点となる病院が施設と連携し、地域の医療を支えていることが分かった。